

工事用パネルを利用した「清水港 未来を創るアートプロジェクト」について

堀池昌生¹・坪倉幹浩²

¹港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課（〒460-8517 名古屋市中区丸の内2-1-36）

²清水港湾事務所 企画調整課（〒424-0922 静岡市清水区日の出町7番2号）

近年、客船における日本への寄港需要が増加している。そうした時勢の中、清水港日の出岸壁では更なる客船受け入れのため、係船柱改良工事を行った。そして工事と清水・みなと色彩計画が連携し、美しい景観を保持する「清水港 未来を創るアートプロジェクト」を実施した。このプロジェクトにより利用制限を受けたフェリー利用者からの工事への理解と協力を得ること（クレームゼロ）が出来た。

キーワード：客船、係船柱、広報

1. 静岡県における観光

静岡県は東京と名古屋の間に位置し、東名・新東名高速道路、圏央道など各都市圏との交通アクセスが充実している。また清水港・御前崎港といったコンテナ航路の就航している港も有しており、海の玄関口としても知られている。さらに2009年には富士山静岡空港も開港しており、陸・海・空の交通アクセスが整っている。

そうした交通の利便性から静岡県の観光産業が着目されている。

県内の各所には観光資源が多数立地しており、平成25年には富士山と三保の松原が世界遺産に登録されている。（図-1）



図-1 静岡県内の主要な観光資源

2. 清水・みなと色彩計画

富士山との景観に調和したみなとづくりのため、平成3年より清水・みなと色彩計画が策定されている。高度経済成長期に工業港として発展してきた清水港が、時代の変遷を経て港周辺の交通網の充実とともに景観の美しい、賑わいのある港に生まれ変わりつつある。

産官学民の取組により、景観、環境色彩への理解を深めてきており、地元の意識向上が美しい清水港の景観をもたらした。（図-2, 3）



図-2 清水港全景



図-3 世界文化遺産「富士山」と調和した清水港の風景

3. 清水港客船誘致委員会

平成2年2月23日、当時世界で最も有名な船「クイーン・エリザベス2」が寄港した。これが契機となり、全国に先駆けて清水港客船誘致委員会が設立した。それから四半世紀にわたり客船誘致に係る様々な取組を行っている。誘致活動として国内外における船会社訪問といった清水港周辺の魅力や港湾機能のPR、歓迎事業として客船寄港時における歓送迎演奏や演舞の実施を行っている。こうした四半世紀に渡る取組は全国的に先進事例となっており、富士山の世界遺産登録を契機に清水港へいっそうの注目が集まっており、近年寄港回数が急激に増加している。（図-4）

こうした取組により近隣の方から「客船のおもてなし」について多大な協力を得ることができている。

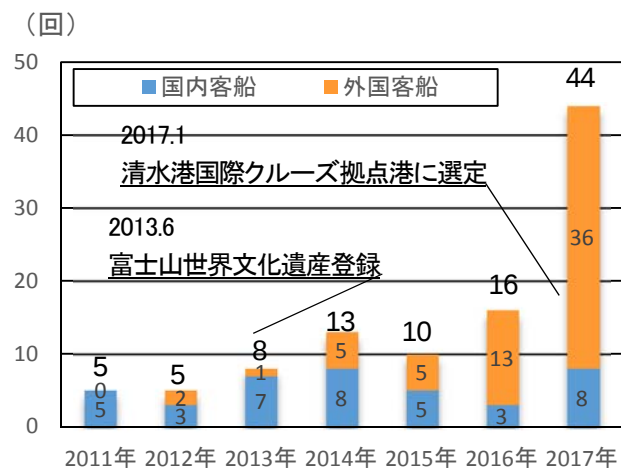


図-4 清水港のクルーズ船寄港回数の推移
※2017年は3月時点の見込み

4. 新たな社会情勢をとらえた対応

更なる観光立国実現のため、「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、国土交通省は新たに訪日クルーズ旅客数を500万人とする目標を定めた。クルーズ船の大型化も進展してきており、受け入れ機能の強化が求められている。（表-1）

表-1 クルーズ船大型化の進展

船名	初就航	同縮尺イメージ
飛鳥Ⅱ	1990年	
Sun Princess	1995年	
Voyager of the Seas	1999年	
Queen Mary 2	2004年	
Oasis of the Seas	2009年	

そこで清水港湾事務所では平成28年度日の出ふ頭岸壁の係船柱を大型化する工事を行っている。この工事によって、世界最大級の客船が清水港に寄港可能となり、今まで大型の客船の寄港時に、岸壁上にまたがる係留索によって制限を受けていた受け入れスペースが最大限活用できるようになった。

5. 清水港日の出地区の特性

清水港において日の出地区は賑わい空間として知られている。清水港開港100周年を記念して建造された「エスパルスドリームプラザ」では港背後で買い物や映画を楽しむことができる。（図-5）また人口海浜や清水マリナーパークと呼ばれるイベント広場が立地している海辺の公園である。清水港から土肥港へのフェリーも就航しており、近隣からのアクセスも充実している。（図-6）

上述している色彩計画においても賑わいのイメージで計画が策定されている。日の出地区においては工事期間中においても景観に配慮した取組が求められている。



図-5 エスパルスドリームプラザの外観



図-6 清水港⇄土肥港航路概要

6. アートプロジェクトの目的

今後のクルーズ船の寄港増や大型化に緊急に対応するため、平成28年度に清水港日の出埠頭において、岸壁改良工事（係船柱の改良）を実施中。図-7に示す通り、平成28年度に6基の係船柱を大型の2,000kN型へ改良した。

これにより、岸壁背後のスペースや動線が確保され、利便性や安全性が向上し、さらに世界最大級のクルーズ船の受入が可能となった。（図-7）

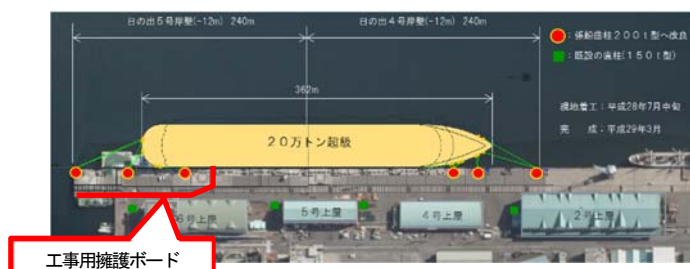


図-7 日の出ふ頭岸壁改良工事概要

図-7に示すように係船柱の工事中は一般の方が立ち入らないための工事用擁護ボードが設置される。日の出岸壁は上述しているとおり、賑わいのゾーンとして近隣の方からも知られている上、駿河湾フェリーや客船利用者などから工事に対するクレームが当初予想された。近年、建設現場も都市を形成する一部と考えられ、仮囲いに壁面緑化を施すなど景観上の工夫がなされている。このような中では、今後、建設現場の仮囲いは危険防止や建設現場の目隠しだけでなく、都市景観を向上させる役割も期待されるようになって考えられる。¹⁾そこで工事区域を囲う工事用擁護ボードに清水港に対するメッセージを貼り付けることで、無機質に見えてしまう工事用擁護ボードを装飾することにした。

加えて前述しているとおり清水港は日本三大美港の一つに数えられる港であり、工事中にあっても景観に配慮した工夫が必要になる。そこでマグネットシートを作成し、静岡市清水港振興課や東海大学海洋学部学生の協力のもと、日の出岸壁へ訪れた人（客船乗船者や見学に訪れた近隣住民）を対象にメッセージを募集した。そのメッセージを記載したマグネットシートを工事用擁護ボードに貼り付けることで景観の向上を計った。

7. アートプロジェクト実施状況

このプロジェクトは海の日（7月18日（月））のダイヤモンド・プリンセス号の寄港時から開始されたものであり、7月19日（火）より現地着手する「日の出岸壁改良工事」と連携したコラボ企画である。

メッセージの収集は客船で清水港を訪れた外国人や客船を見学に来た清水港近隣の住民を対象に行われた。メッセージは大きさや色を変えて9種類用意し、記載する方の好みに合わせられるようにした。（表-2）

表-2 用意したマグネットシート

	青	黄	橙	緑	ピンク
大（15×15cm）	●	●	×	●	●
小（10×10cm）	●	●	●	●	●



図-8 アートプロジェクト実施状況

メッセージ収集状況について、はじめは外国の方へ主旨を説明することが困難であったが、英語で記載された説明ボードを用い英語での説明を行うことで、回を追う毎に外国の方へ主旨が伝わるようになった。

強風や雨など悪天候の場合、日の出ふ頭背後のマリンターミナルにてメッセージ収集を行ってきた。



図-9 メッセージ貼り付け状況
(8/16ダイヤモンド・プリンセス寄港時)

表-3 アートプロジェクト実施日一覧

日時	清水港寄港の客船
2016. 07. 18	ダイヤモンド・プリンセス
2016. 07. 30	にっぽん丸
2016. 08. 01	にっぽん丸
2016. 08. 16	ダイヤモンド・プリンセス
2016. 08. 30	ダイヤモンド・プリンセス
2016. 09. 15	にっぽん丸
2016. 09. 20	セレブリティ・ミレニアム
2016. 10. 05	シルバー・シャドー
2016. 10. 12	ロストラル
2016. 10. 17	セレブリティ・ミレニアム
2016. 12. 10	飛鳥Ⅱ
2016. 12. 22	ぱしふいっく びいなす
2017. 01. 08	飛鳥Ⅱ
2017. 03. 15	フォーレンドム

また図-9に示すとおり、日の出岸壁は例え工事中でも客船受け入れスペースに成り得るため、英語を交えてク

ルーズで訪れた人が心地よく旅を楽しめるメッセージに工夫を施している。

平成28年7月29日に第1弾（WELCOME TO SHIMIZU・ようこそ清水港へ）貼り付けを行い、平成28年9月30日に第2弾（COMEBACK SOON）貼り付けを行った。

係船柱の工事が11月で南側の残り3基へ進捗すると視認性が落ちるため、静岡県による「海洋展」と呼ばれる平成28年度からの海洋関連行事においてホワイトボードへ貼り付けを行った。（図-10）



図-10 メッセージ貼り付け状況（海洋展）

賑わいのゾーンにおける工事であったが、当初懸念された工事に対するクレームは皆無であった。

8. マグネットシート分析

7月18日（月）と8月16日（火）2回のダイヤモンド・プリンセス号の寄港時における収集メッセージの傾向について分析を行った。

まず、収集枚数については7月18日 275枚、8月16日 112枚となった。枚数減少の要因としては1回目の記載をしてくれた方が、2回目のリピーターになりづらかったこと。また1回目海の日と異なり、8月16日は全体の客船見学者数が減少したことなどが考えられる。（表-4）

表-4 メッセージ収集状況

	7/18収集枚数	8/16収集枚数
一般来場者	163	86
乗船客	112	26
全体	275	112

また、メッセージの内容にも着目してみると、名前を記載している方が多く見られた。後ほど掲示される旨、説明を行っていたので、後で探しやすいように記名していると考えられる。全体の約37%が記名していた。メッセージの内容例は表-5に示す通りで、多くの方が日本と清水に対して好感的な感想を記入していた。

表-5 メッセージ記載文章の例

Beautiful country, beautiful people
海の香りのすがすがしい港
I love Shimizu

Welcome to Japan, welcome to Shimizu
大好き富士山
富士山と海と魚がとってもステキな町
Etc...

また文章でなく絵を描いている方が多く見られた。その内容の例については表-6に示す通りであるが、中でも富士山や客船について描かれている方が多く見受けられた。（全体の約4割）（表-7）

表-6 メッセージ記載された絵の例

富士山
国旗
海
ダイヤモンドプリンセス
魚
お茶
Etc...

表-7 メッセージに富士山が描かれている割合

	7/18	8/16
一般来場者	43%	50%
乗船客	44%	28%
全体	43%	42%

富士山が多く描かれた理由として、①清水は三保の松原からの景色が有名であるため、②清水港から富士山を眺望することができるため、③静岡県は山梨県と同じく、富士山を強く宣伝している県であるためなどが考えられる。

最後に全5色の中から、もっとも選ばれている色は青（37%）であった。色彩計画の浸透や富士山や海のイメージから青がよく選ばれている結果になったものと考えられる。

9. 結論

アートプロジェクトの実施により工事中にもかかわらず図-9の様な良好な景観が保たれることになった。また係船柱改良工事にあたり、通常時は日の出ふ頭を利用している「駿河湾フェリー」と利用調整を行っていた。このプロジェクトによる効果の一端として利用制限を受けたフェリー利用者からの工事への理解と協力を得ること（クレームゼロ）が出来た。

また青のマグネットシートが選ばれた結果から海へのイメージと色彩計画における取組の成果がうかがえる。アクアブルーとホワイトへの配色により港への良好なイメージが形成されている。

本プロジェクトのみで無く、清水港において美しい景

観を守る取組は数多くなされており,官民連携した取組となっている.今後も美しい景観を守りつつ事業を進めてまいりたい.

謝辞:クルーズ船寄港時のアートプロジェクトの実施にあたり,静岡市清水港振興課の皆様,東海大学海洋学部の皆様,通訳ボランティアの皆様におかれましては多大なご協力をいただきました.またクルーズ船の歓送迎に関わる関係者の皆様,日の出岸壁を訪れた見学者の方々に

おかれましても,多くのメッセージ募集にご協力いただきました.アートプロジェクトの取組にご協力・ご賛同いただいた多くの皆様へ,心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく,謝辞に代えさせていただきます.

参考文献

- 1) 山川博彰,太田篤史,立松昭彦,建設現場の仮囲いが工事騒音を伴う歩行空間の印象評価に与える影響,人間・環境学会第19回大会 発表論文要旨